

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 山形県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|-------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 鶴岡市立鶴岡第二中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 5 | 4 | 5 | 0 | 14 | 27 |
| 生徒数 | 165 | 158 | 173 | 0 | 496 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|-----------------------|
| 「確かな学力」の向上を目指す個別指導の工夫 |
|-----------------------|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・全学年 数学、英語 生徒の理解の状況や興味・関心に差が出やすい教科であるため。 |
|--|

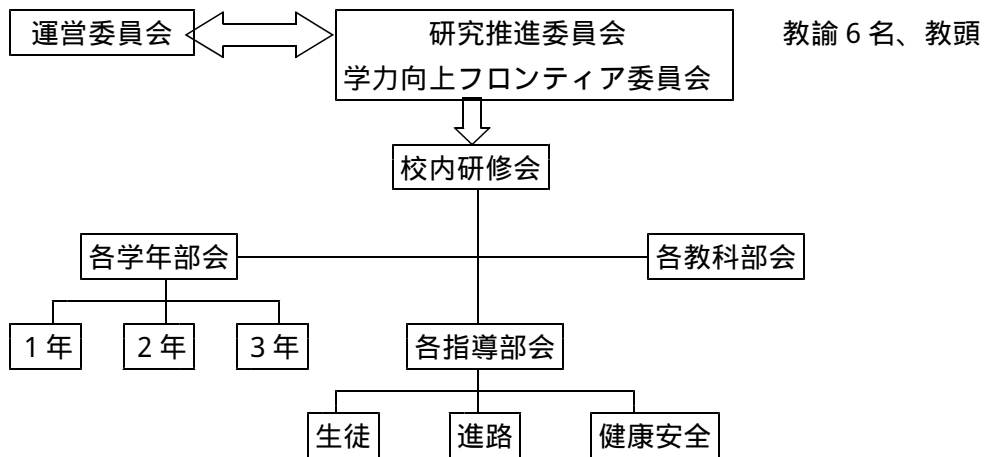
(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ 「確かな学力」の向上を目指す個別指導の工夫</p> <p>研究の見通し</p> <p>学習集団を習熟度に応じて少人数に再編成すれば、個のレベルに応じた授業が展開でき、積極的に学習に取り組むようになるのではないかと。さらに、その学習集団を複数の教員が指導すれば、低位の生徒に対してもきめ細かな指導ができ、基礎・基本の内容を確実に定着できるのではないかと。</p> <p>習熟度別学習集団における多様な評価方法を工夫することにより、個々の学習意欲が高まり、一人一人がより高い学力を目指して学習に取り組むのではないかと。</p> |
|--------|--|

| | |
|--|---|
| | <p>研究の内容・方法</p> <p>年間を通じて、全学年全時間、2学級を3つの習熟度別コース（基礎定着・発展）に編成し直し、特に基礎コースは人数を10人程度に絞ってTT指導を行う。</p> <p>その中で</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 習熟度、TT指導を生かした各コースにおける指導方法の工夫 イ 習熟の程度に応じた課題提示や教材の工夫 ウ 個々の生徒の意欲と学力を伸ばす評価・評定の工夫 <p>を研究していく。</p> <p>さらに学習遅進の顕著な生徒に対して、全職員の協力体制のもと、個別の学習支援担当者（ミニ家庭教師）を決めて、昼休みや放課後の時間を利用して定期的に学習の支援を行う。</p> |
|--|---|

| | |
|----------------|---|
| 平成 16 年度 | <p>テーマ 「確かな学力」の向上を目指す個別指導の改善</p> <p>研究の見通し</p> <p>習熟度別学習の編成方法や指導方法を見直すことにより、より効果的な少人数指導の形態に改善できるのではないか</p> <p>課題提示や教材の工夫、評価・評定の方法を見直すことにより、より確かな学力が身に付いてくるのではないか</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>習熟度別学習の指導形態の見直しと改善</p> <p>習熟度、TT指導を生かした各コースにおける指導法の研究とまとめ</p> <p>習熟の程度に応じた課題提示や教材の研究のまとめ</p> <p>個々の生徒の意欲と学力を伸ばす評価・評定の研究のまとめ</p> <p>ミニ家庭教師の指導方法の改善</p> |
|----------------|---|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

生徒の習熟度が一定して授業が進めやすい。

同じコースの生徒は、似通った反応をすることが多いので、生徒の学習状況を理解しやすく、授業が組み立てやすい。

コースに応じて授業が展開でき、習熟の程度に応じて高度な問題に数多く取り組ませたり、逆に基本的な問題に多く時間を割いて、TTによる指導をしながら基礎力を定着させるなど、個に対応したきめ細かな支援をすることができる。基礎コースの生徒は、普段の授業では発言・発表はほとんどないが、コース別になると、少人数でしかも周りの生徒は自分とほぼ同じ習熟の程度だという安心感があるのかつぶやきや発言が多くなり、学習リーダーもその中で育っている。

授業中に保健室にいく生徒の数が昨年度より減少している。(内科的訴えによる保健室利用が12月現在で対前年比85%)これも習熟度別学習によって「授業がわかりやすく、楽しくなった」からではないかと思われる。

2. 今後の課題

コース決定の方法について

今年度は、教師主導で学期ごとに決めている。生徒の希望制にした場合、自分の状況を判断できない生徒や遠慮してしまう生徒も出ることを考えて、定期テストの結果から教師が原案を作り、境界線の生徒やコースを変更する生徒については、コース担当の教師が個別に相談することになっている。しかし、これが「能力主義による差別」と誤解されないように、生徒および保護者に十分理解を求めていく必要があると同時に、この方法が妥当であるかについてもアンケート等を取って検討していく必要がある。

コース設定について

学校規模や配置の人数などの条件はあるが、2クラスを3コースに分けることについても、特に低位の生徒への支援が十分かという観点から継続して検討していく必要がある。

コース担当者について

今年度は、年間を通してコースの担当教師は変更しなかったが、できるだけ多くの生徒と係わっていくという考えからコース担当者を変えた方がよいという意見もあり、継続して検討していく必要がある。

授業の進度について

コースによって進度の差が出ないように、綿密に指導計画を立て、指導する内容と時間配分について教科部会等できめ細かく打合せをしていく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- ・標準学力検査（NRT）による学力偏差の推移
- ・学力診断テスト（年1回数・英で実施）による平均点の推移

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 第1回校内授業研究会（6月13日）
- 第2回校内授業研究会（10月3日）
- 第3回校内授業研究会（11月7日）
- 校内研修会（2月4日）
 - 講師 宮城教育大学教授 相澤 秀夫先生
 - 内容 習熟度別授業の指導と指導法の工夫についての講演

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無